

ヨハネの福音書 10 章 1-10 節

I Am The Door.

私は門です

10:1 「まことに、まことに、あなたがたに告げます。羊の囲いに門から入らないで、ほかの所を乗り越えて来る者は、盗人で強盗です。 10:2 しかし、門から入る者は、その羊の牧者です。 10:3 門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分けます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。 10:4 彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているの、彼について行きます。 10:5 しかし、ほかの人には決してついて行きません。かえって、その人から逃げ出します。その人たちの声を知らないからです。」 10:6 イエスはこのたとえを彼らにお話しになったが、彼らは、イエスの話されたことが何のことかよくわからなかった。 10:7 そこで、イエスはまた言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしは羊の門です。 10:8 わたしの前に来た者はみな、盗人で強盗です。羊は彼らの言うことを聞かなかったのです。 10:9 わたしは門です。だれでも、わたしを通過して入るなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。 10:10 盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。

はじめに

9 節は、ヨハネの福音書に 7 つあるイエス様の「自分は永遠の神の子である」という断言（宣言）の 3 番目です。2 週間前に「私は命のパンです。」そして、先週「私は世の光です。」について共に学びました。それらと同じように、今回もイエス様は、旧約聖書にある神様の名前を自分に対して使って「私は門です。」と断言しています。

今読んだ箇所 1 節-5 節までで、イエス様はたとえ話を通してご自分が二つの役目を同時に果たしていると言いました。自分は羊の門であると同時に羊飼いになっているということです。弟子達はそのたとえ話を十分理解出来なかったの、6 節-30 節まででイエス様はその二つの事を詳しく説明して下さいました。

10:6 「イエスはこのたとえを彼らにお話しになったが、彼らは、イエスの話されたことが何のことかよくわからなかった。 10:7 そこで、イエスはまた言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしは羊の門です。」

今日はイエス様の門としての役目に焦点を合わせてお話ししましょう。7 節の後に 9 節でも繰り返して言われています。

10:9 「わたしは門です。だれでも、わたしを通過してはいるなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。」

この 9 節は中心になる御言葉です。

1. 唯一の救いの門である

9 節「私は羊の門です。誰でも私を通過して入るなら、救われます。 . . . 」

イエス様は自分が唯一の救いの門だと断言しています。英語の翻訳は日本語よりも分かりやすいです。” the door (ある特定の門を指す) ”と翻訳されていて、“a door (ただの一般的な門を指す) ”ではありません。原語のギリシャ語ではもっとはっきり分かります。

先週と先々週に説明したようにイエス様は「私は」の部分に、出エジプト記 3:14 の「私はある」と言う神様の名前をわざと使って断言しています。その言葉を聞いていた宗教的指導者達と国の指導

者達にとっては、それは石打死刑に当たる冒瀆罪でした。ですから最初から何回も、彼らはイエス様を捕えようとしたが出来ませんでした。10章を読み続けるとイエス様はそんな環境でも凄い勇気に満ちたことを言ったことがわかります。

ヨハネ10：18「だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。」

イエス様を捕える為に遣わされた役人達は、イエス様の話を直接的に聞き、そのまま手ぶらで帰って来て責任者達にこう答えました。

ヨハネ7:46「役人たちは答えた。「あの人が話すように話した人は、いまだかつてありません。」イエス様の言葉に神様の力が働いています。イエス様が権威と言う言葉を使っているその意味は、天国からの権威です。一般の人々でも、イエス様の教えについて次のように言いました。

マタイ7：28-29「イエスがこれらのことばを語り終えられると、群衆はその教えに驚いた。

というのは、イエスが、律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように教えられたからである。」

イエス様は社会的な地位や学歴等何も持っていませんでしたが、天国の権威を持って話していました。今日の箇所に戻って「私は門です」と断言した言葉の文脈を見ましょう。

10：8「わたしの前に来た者はみな、盗人で強盗です。羊は彼らの言うことを聞かなかったのです。」

イエス様は誰についてこれを行っているかを説明する必要があります。イエス様は立法学者とパリサイ派の宗教的指導者達について言っていました。イエス様の以前に来た旧約聖書の預言者達は、最後のバプテスマのヨハネまで皆、イエス様の事を指して、イエス様の道を整える為に預言をしました。イエス様はこの8節で、現在形を使って「盗人で強盗です。」と言っています。それはその当時の宗教的指導者達のことです。彼らはイエス様ではなくて、自分達が救いの門だと教えていましたが、人々は彼らの話を聞きませんでした。伝統だけにに基づき、形式だけの死んだ宗教は盗人と泥棒です。最終的にその伝統を守る為に罪のない神様のひとり子を殺してしまいました。

聖書は別の箇所でも、イエス様は唯一の救いの門だとはっきり言っています。

使徒4：12「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」

日本人でも狭き門という言葉を一般的な会話で使う事がありますが、残念ながら、その言葉の由来と本当の意味を知りません。イエス様が自分自身について使ったのがその言葉の始まりです。後でそれに戻りましょう。

2. 守りの門である

ヨハネ10：9の後半には「また安らかに出入りし、牧草を見付けます。」とあります。

羊は自分を守る能力は全くなく、怖がりの動物です。安心していなければ出入りする事が出来ません。なぜイエス様はこのたとえ話で自分が羊の門であると同時に羊飼いであると言っているかを説明しましょう。

その当時の中東の羊飼いは夜に外で一晩中羊と一緒に過ごしていました。その時の羊の囲いは石を積んで作られた壁と狭い入口だけでした。羊飼いはその入口の所で寝て、自分の体を門として使って羊を守っていました。

北アイルランド出身の私達にとってその壁は想像しやすいです。家の近所に多くの羊の牧場があって今でも石を積んだ壁を使っている牧場が多いです。家から歩いて5分以内にくらでも羊の牧草地がありますから、散歩やドライブをしたら、羊の群れとその壁を沢山見られます。その壁の奇跡の話をご紹介します。

羊が生き残った奇跡のストーリー

2013年に世界中で報道され、日本のテレビのニュースでも報道された、私の北アイルランドの家の近所で起こった石の壁と羊の奇跡の話です。ほとんど雪が降らない北アイルランドなのに、2013年の4月に季節外れの大雪が降り、2万匹以上の羊が2メートルほどの雪で埋まって窒息死してしまいました。それなのに、2匹だけが3週間以上埋まっていたにも関わらず、雪が解けたら生きているままで出て来ました。なぜ奇跡的に助かったかと言いますと、石の積まれた壁の近くにおいて、空気のポケットが出来て窒息せずに、雪を食べながら生き残ったからでした。テレビのメディアは、失われた羊が見付かった奇跡の話として報道しました。それより、もっと素晴らしい奇跡が2000年ほど前にありました。人類の歴史で最大の奇跡がイスラエルのベツレヘムと言う町の近くで、天使によって羊飼いや達初めて知らされました。

ルカ2：8-11「さて、この土地に、羊飼いや達、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。2:9すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。

2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のための素晴らしい喜びを知らせに来たのです。2:11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」

私達は皆、神様の目から見て失われた羊として罪の中で死んでいたために、私達の救いの門として、そして同時に私達の羊飼いやとしてイエス様をこの世に遣わして下さいと聖書は教えてくれます。イエス様は自分から進んで、十字架の上で体が裂かれる事によって私達の身代わりとして命を捧げて下さいました。

今日の箇所のとえ話に戻ってみると、イエス様の守りについて書いてあります。自分の体を門として使うだけではありません。

ヨハネ10：4「彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているのです、彼について行きます。」

先頭に立って行く目的は二つあります。もちろん、導きながら守る為です。私達の人生に触れる物事は全て、先ずイエス様を通らなければなりません。イエス様の許可無しにイエス様の信者の人生には何も触れる事が出来ないのです。だから、100%安心して従って行けます。この事は実際の出来事によって旧約聖書に描かれています。40年間神様は雲の柱と、夜には火の柱の中でイスラエルの人々の前を進んで行かれました。その間、彼らは何回も不従順で神様を怒らせたにも関わらず神様に捨てられることはありませんでした。

出エジプト記13：21-22「主は、昼は、途上の彼らを導くため、雲の柱の中に、夜は、彼らを照らすため、火の柱の中にいて、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。

13:22 昼はこの雲の柱、夜はこの火の柱が民の前から離れなかった。」

40年間、目的地に着くまで離れませんでした。最初に紅海を渡る時には、エジプトの軍隊が彼らを追いかけて滅ぼそうとした際に、主が彼らの前から後ろに行き彼らを守りました。全てのイエス様の信者は、前からも後ろからも、何も害を加えられる事は出来ないのです。将来に於いても、過去の事からでも、何も害を加える事が出来ません。信者は全面的に守られています。

3. 備えの門である

9節の後半にある「また安らかに出入りし、牧草を見つけます。」の「牧草を見付ける」というのは、イエス様が全ての必要を満たして下さいと言う意味です。次の10節にもそれをさらに強調して繰り返して言っています。

10:10「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」

イエス様は豊かに備えて下さいます。2週間前の「イエス様は命のパンです」と言うメッセージの時に一緒に見ましたが、イエス様は唯一私達の心を完全に満足させる救い主です。心の一番深い飢

え渴きを完全に満たして、決して飢える事がなく、どんな時にも、決して渴く事がないと約束して下さっています。霊的な必要はもちろん一番大切ですが、命を豊かに与える主ですから、物質的・肉体的なことも含めて全ての必要を満たして下さいます。

ピリピ人**4:19** 「また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。」

この箇所の流れも読むと、使徒パウロは明らかに物質的な物について書いていることがわかります。イエス様も山上の垂訓の有名な話の中で、何も心配してはいけないと同じ事を教えています。

マタイ**6:31** 「そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。**6:32** こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。

6:33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」

神の国と神の義を与えられた上に更に生きる為に他の全ての物も加えられると約束しています。

それでは、神様を第一に求めていない時は、生きる為に必要な物は与えられないでしょうか？そんな意味ではありません。少し手前の箇所でイエス様は、神様は悪い人にも、必要な物を与えて下さいますと言いました。

マタイ**5:45** 「それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。」

では、何が違うのでしょうか？私たちは何のために神の国と神の義を求めなければならないのでしょうか？求めない人には神の国と神の義は与えられません。しかも、神様を求めていない人は生きる為に必要な物を与えられているのに、それが神様に与えられていると気が付かないので、不平不満だらけで、何を与えられても満たされないうえ、いつまでもこの世の物で心を満たそうとしてしまいます。つまり、何が手に入っても、心の安らぎを経験出来ないのです。

まとめ

狭き門の話に戻りましょう。

マタイ**7:13** 「狭い門からは入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからは行って行く者が多いのです。**7:14** いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。」

イエス様は狭い門で、楽な道ではありませんが、唯一の救いの門であり、唯一全面的に守ってくれる門であり、唯一の完全に満たす事が出来る門なのです。

ヨハネの福音書 10 章 1-10 節

I Am The Door.

私は門です

10:1 「まことに、まことに、あなたがたに告げます。羊の囲いに門から入らないで、ほかの所を乗り越えて来る者は、盗人で強盗です。 10:2 しかし、門から入る者は、その羊の牧者です。 10:3 門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分けます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。 10:4 彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているの、彼について行きます。 10:5 しかし、ほかの人には決してついて行きません。かえって、その人から逃げ出します。その人たちの声を知らないからです。」 10:6 イエスはこのたとえを彼らにお話しになったが、彼らは、イエスの話されたことが何のことかよくわからなかった。 10:7 そこで、イエスはまた言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしは羊の門です。 10:8 わたしの前に来た者はみな、盗人で強盗です。羊は彼らの言うことを聞かなかったのです。 10:9 わたしは門です。だれでも、わたしを通過して入るなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。 10:10 盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。

はじめに

9 節は、ヨハネの福音書に 7 つあるイエス様の「自分は永遠の神の子である」という断言（宣言）の 3 番目です。2 週間前に「私は命のパンです。」そして、先週「私は世の光です。」について共に学びました。それらと同じように、今回もイエス様は、旧約聖書にある神様の名前を自分に対して使って「私は門です。」と断言しています。

今読んだ箇所 1 節-5 節までで、イエス様はたとえ話を通してご自分が二つの役目を同時に果たしていると言いました。自分は羊の門であると同時に羊飼いにもなっているということです。弟子達はそのたとえ話を十分理解出来なかったの、6 節-30 節まででイエス様はその二つの事を詳しく説明して下さいました。

10:6 「イエスはこのたとえを彼らにお話しになったが、彼らは、イエスの話されたことが何のことかよくわからなかった。 10:7 そこで、イエスはまた言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしは羊の門です。」

今日はイエス様の門としての役目に焦点を合わせてお話ししましょう。7 節の後に 9 節でも繰り返して言われています。

10:9 「わたしは門です。だれでも、わたしを通過してはいるなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。」

この 9 節は中心になる御言葉です。

1. 唯一の救いの門である

9 節「私は羊の門です。誰でも私を通過して入るなら、救われます。 . . . 」

イエス様は自分が唯一の救いの門だと断言しています。英語の翻訳は日本語よりも分かりやすいです。” the door (ある特定の門を指す) ”と翻訳されていて、“a door (ただの一般的な門を指す) ”ではありません。原語のギリシャ語ではもっとはっきり分かります。

先週と先々週に説明したようにイエス様は「私は」の部分に、出エジプト記 3:14 の「私はある」と言う神様の名前をわざと使って断言しています。その言葉を聞いていた宗教的指導者達と国の指導

者達にとっては、それは石打死刑に当たる冒瀆罪でした。ですから最初から何回も、彼らはイエス様を捕えようとしたが出来ませんでした。10章を読み続けるとイエス様はそんな環境でも凄い勇気に満ちたことを言ったことがわかります。

ヨハネ10：18「だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。」

イエス様を捕える為に遣わされた役人達は、イエス様の話を直接的に聞き、そのまま手ぶらで帰って来て責任者達にこう答えました。

ヨハネ7:46「役人たちは答えた。「あの人が話すように話した人は、いまだかつてありません。」イエス様の言葉に神様の力が働いています。イエス様が権威と言う言葉を使っているその意味は、天国からの権威です。一般の人々でも、イエス様の教えについて次のように言いました。

マタイ7：28-29「イエスがこれらのことばを語り終わられると、群衆はその教えに驚いた。

というのは、イエスが、律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように教えられたからである。」

イエス様は社会的な地位や学歴等何も持っていませんでしたが、天国の権威を持って話していました。今日の箇所に戻って「私は門です」と断言した言葉の文脈を見ましょう。

10：8「わたしの前に来た者はみな、盗人で強盗です。羊は彼らの言うことを聞かなかったのです。」

イエス様は誰についてこれを行っているかを説明する必要があります。イエス様は立法学者とパリサイ派の宗教的指導者達について言っていました。イエス様の以前に来た旧約聖書の預言者達は、最後のバプテスマのヨハネまで皆、イエス様の事を指して、イエス様の道を整える為に預言をしました。イエス様はこの8節で、現在形を使って「盗人で強盗です。」と言っています。それはその当時の宗教的指導者達のことです。彼らはイエス様ではなくて、自分達が救いの門だと教えていましたが、人々は彼らの話を聞きませんでした。伝統だけにに基づき、形式だけの死んだ宗教は盗人と泥棒です。最終的にその伝統を守る為に罪のない神様のひとり子を殺してしまいました。

聖書は別の箇所でも、イエス様は唯一の救いの門だとはっきり言っています。

使徒4：12「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」

日本人でも狭き門という言葉を一般的な会話で使う事がありますが、残念ながら、その言葉の由来と本当の意味を知りません。イエス様が自分自身について使ったのがその言葉の始まりです。後でそれに戻りましょう。

2. 守りの門である

ヨハネ10：9の後半には「また安らかに出入りし、牧草を見付けます。」とあります。

羊は自分を守る能力は全くなく、怖がりの動物です。安心していなければ出入りする事が出来ません。なぜイエス様はこのたとえ話で自分が羊の門であると同時に羊飼いであると言っているかを説明しましょう。

その当時の中東の羊飼いは夜に外で一晩中羊と一緒に過ごしていました。その時の羊の囲いは石を積んで作られた壁と狭い入口だけでした。羊飼いはその入口の所で寝て、自分の体を門として使って羊を守っていました。

北アイルランド出身の私達にとってその壁は想像しやすいです。家の近所に多くの羊の牧場があって今でも石を積んだ壁を使っている牧場が多いです。家から歩いて5分以内にくらでも羊の牧草地がありますから、散歩やドライブをしたら、羊の群れとその壁を沢山見られます。その壁の奇跡の話をご紹介します。

羊が生き残った奇跡のストーリー

2013年に世界中で報道され、日本のテレビのニュースでも報道された、私の北アイルランドの家の近所で起こった石の壁と羊の奇跡の話です。ほとんど雪が降らない北アイルランドなのに、2013年の4月に季節外れの大雪が降り、2万匹以上の羊が2メートルほどの雪で埋まって窒息死してしまいました。それなのに、2匹だけが3週間以上埋まっていたにも関わらず、雪が解けたら生きているままで出て来ました。なぜ奇跡的に助かったかと言いますと、石の積まれた壁の近くにおいて、空気のポケットが出来て窒息せずに、雪を食べながら生き残ったからでした。テレビのメディアは、失われた羊が見付かった奇跡の話として報道しました。それより、もっと素晴らしい奇跡が2000年ほど前にありました。人類の歴史で最大の奇跡がイスラエルのベツレヘムと言う町の近くで、天使によって羊飼いや達初めて知らされました。

ルカ2：8-11「さて、この土地に、羊飼いや達、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。2:9すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。

2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のための素晴らしい喜びを知らせに来たのです。2:11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」

私達は皆、神様の目から見て失われた羊として罪の中で死んでいたために、私達の救いの門として、そして同時に私達の羊飼いやとしてイエス様をこの世に遣わして下さいと聖書は教えてくれます。イエス様は自分から進んで、十字架の上で体が裂かれる事によって私達の身代わりとして命を捧げて下さいました。

今日の箇所のとえ話に戻ってみると、イエス様の守りについて書いてあります。自分の体を門として使うだけではありません。

ヨハネ10：4「彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているのです、彼について行きます。」

先頭に立って行く目的は二つあります。もちろん、導きながら守る為です。私達の人生に触れる物事は全て、先ずイエス様を通らなければなりません。イエス様の許可無しにイエス様の信者の人生には何も触れる事が出来ないのです。だから、100%安心して従って行けます。この事は実際の出来事によって旧約聖書に描かれています。40年間神様は雲の柱と、夜には火の柱の中でイスラエルの人々の前を進んで行かれました。その間、彼らは何回も不従順で神様を怒らせたにも関わらず神様に捨てられることはありませんでした。

出エジプト記13：21-22「主は、昼は、途上の彼らを導くため、雲の柱の中に、夜は、彼らを照らすため、火の柱の中にいて、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。

13:22 昼はこの雲の柱、夜はこの火の柱が民の前から離れなかった。」

40年間、目的地に着くまで離れませんでした。最初に紅海を渡る時には、エジプトの軍隊が彼らを追いかけて滅ぼそうとした際に、主が彼らの前から後ろに行って彼らを守りました。全てのイエス様の信者は、前からも後ろからも、何も害を加えられる事は出来ないのです。将来に於いても、過去の事からでも、何も害を加える事が出来ません。信者は全面的に守られています。

3. 備えの門である

9節の後半にある「また安らかに出入りし、牧草を見つけます。」の「牧草を見付ける」というのは、イエス様が全ての必要を満たして下さいと言う意味です。次の10節にもそれをさらに強調して繰り返して言っています。

10:10「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」

イエス様は豊かに備えて下さいます。2週間前の「イエス様は命のパンです」と言うメッセージの時に一緒に見ましたが、イエス様は唯一私達の心を完全に満足させる救い主です。心の一番深い飢

え渴きを完全に満たして、決して飢える事がなく、どんな時にも、決して渴く事がないと約束して下さっています。霊的な必要はもちろん一番大切ですが、命を豊かに与える主ですから、物質的・肉体的なことも含めて全ての必要を満たして下さいます。

ピリピ人**4:19** 「また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。」

この箇所の流れも読むと、使徒パウロは明らかに物質的な物について書いていることがわかります。イエス様も山上の垂訓の有名な話の中で、何も心配してはいけないと同じ事を教えています。

マタイ**6:31** 「そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。**6:32** こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。

6:33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」

神の国と神の義を与えられた上に更に生きる為に他の全ての物も加えられると約束しています。

それでは、神様を第一に求めている時は、生きる為に必要な物は与えられないでしょうか？そんな意味ではありません。少し手前の箇所でイエス様は、神様は悪い人にも、必要な物を与えて下さいますと言いました。

マタイ**5:45** 「それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。」

では、何が違うのでしょうか？私たちは何のために神の国と神の義を求めなければならないのでしょうか？求めない人には神の国と神の義は与えられません。しかも、神様を求めている人は生きる為に必要な物を与えられているのに、それが神様に与えられていると気が付かないので、不平不満だらけで、何を与えられても満たされないうえ、いつまでもこの世の物で心を満たそうとしてしまいます。つまり、何が手に入っても、心の安らぎを経験出来ないのです。

まとめ

狭き門の話に戻りましょう。

マタイ**7:13** 「狭い門からは入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからは行って行く者が多いのです。**7:14** いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。」

イエス様は狭い門で、楽な道ではありませんが、唯一の救いの門であり、唯一全面的に守ってくれる門であり、唯一の完全に満たす事が出来る門なのです。